

京都セーフコミュニティ研究会の歩み

報告者 白石 陽子
マチュールライフ研究所
立命館大学大学院政策科学研究科

報告の流れ

- I. 京都セーフコミュニティ研究会について
- II. 「セーフコミュニティ(SC)」とは
- III. SC活動の展開
 - ◎ 世界レベルでの展開
 - ◎ 日本での展開
- IV. 京都SC研究会の活動の経緯
- V. 補足: 亀岡市におけるSC(研究面から)

I -1. 京都セーフコミュニティ研究会①

- 2004年4月に発足
 - 京都府立医科大学
(大学院医学研究科、医学部看護学科)
 - 立命館大学
(政策科学部、理工学部ロボティクス学科、etc……)
 - 株式会社リベックス、マチュールライフ研究所
 - 京都府保健福祉部(オブザーバー)
- 事業名
「京都SC形成のための健康・福祉技術化研究」
⇒「文理融合・文系産学連携促進事業」から助成金

Mature Life Institute

3

I -1. 京都セーフコミュニティ研究会②

- 目的
 - 医・社・工連携による京都の健康・安全を推進する社会システムの構築および健康・安全を高める技術のあり方を研究する
- 主な研究
 - SCの「概念」、「取組み内容」、「認証」の研究
 - 京都府下におけるSC導入の可能性に関する調査
 - 転倒防止に関する技術、製品開発に関する研究

Mature Life Institute

4

II-1. 「セーフコミュニティ(SC)」

■ 「セーフコミュニティ」とは・・・

- すでに完全に安全なコミュニティではなく、安全の向上(外傷・暴力・自殺・自然災害の予防)のために、さまざまなアクターが連携して取り組んでいるコミュニティ

⇒「Safety(安全)」とは、単に「危険がない状態」ではなく、危険をコントロールできている状態

⇒「コミュニティ」とは、地方自治体(州/郡、市町村、その一区域)

出典: WHO Collaborating Centre on Community Safety Promotion

Mature Life Institute 5

II-1. 「セーフコミュニティ(SC)」

WHO 地域の安全向上のための協働センター(地域CSP協働センター)

外傷や事故など健康の阻害要因を「コミュニティレベル」で予防

↓

だれもが安心して生活できる安全なまちづくりへの取り組み

地域住民の主体的な参加

世界で約130(累計)のコミュニティがSCに認証

Mature Life Institute 6

II-2. 「セーフコミュニティ」の基準

- 連携の仕組み** 1. 分野の垣根を越えた協働による推進組織がある
- 地域の実情にあった継続的プログラム** 2. 全ての年齢、性別、環境、状況をカバーする長期的、継続的なプログラムがある
- 3. ハイリスクグループと環境に着目し、弱者グループの安全性を高めるプログラムがある
- 評価の仕組み** 4. 外傷の頻度と原因を記録するプログラムがある
- 5. プログラム、プロセス、実践の効果をアセスメントする評価基準がある
- 情報交流** 6. 国内および国際的なSCネットワークへ継続的に参加している

Mature Life Institute 7

SCのイメージ

関連アクターによる垣根を越えた連携

全ての住民・環境・状況が取組み対象

現状と成果を科学的な視点から評価

保健 NPO 行政 福祉

現状把握

保健所 医療 病院

	子ども	成年	高齢者	
家庭	地域の実情に合ったプログラムの企画・実践			企業
交通				教育
学校・職場				学校
余暇				

取組評価

交通 警察 ボランティア 環境

Mature Life Institute 8

II -3. SCの対象範囲

		子ども (0-14)	青年 (15-24)	成人 (25-64)	高齢者 (65以上)
環境	家庭				
	交通				
	学校				
	職場				
	余暇・スポーツ				
+					
自殺					
暴力(DV含む)					
その他					

Mature Life Institute 9

III. 世界のSC活動の展開①

1970年代(スウェーデンのファルショッピング)
外傷予防プログラム(FAPP)

3年で外傷が約30%減少

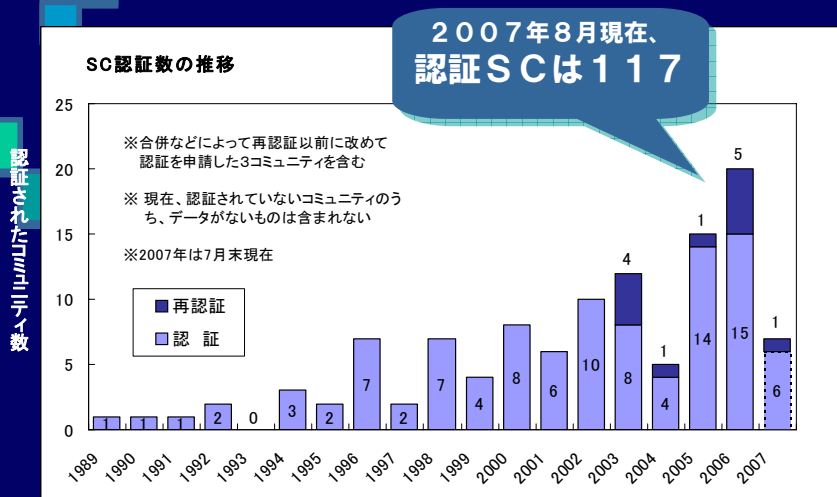
WHOによる「ヘルスプロモーション」
外傷予防の必要性

1989年～「セーフコミュニティ」活動を開始

- WHOとカロリンスカ研究所(医科大学)による地域の安全向上のための協働センターを設置
- SCの認証制度を開始

Mature Life Institute 10

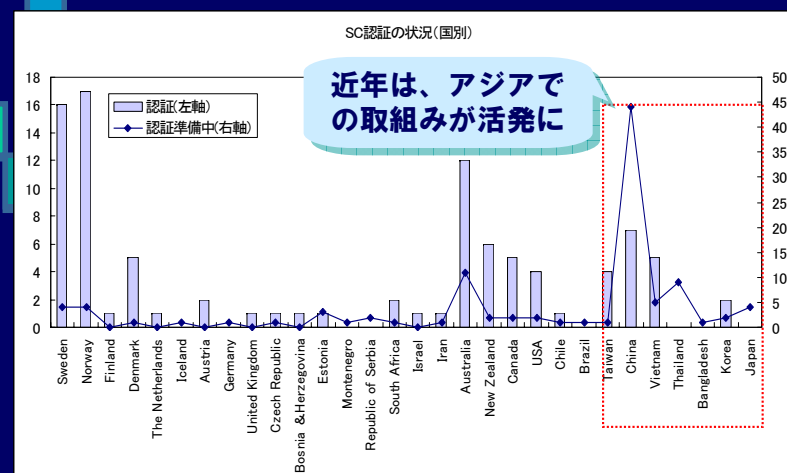
Ⅲ. 世界のSC活動の展開②



Mature Life Institute

11

Ⅲ. 世界のSC活動の展開③



Mature Life Institute

12

IV. 日本におけるSC活動

- 日本で、SCに認証された自治体はない
 - 従来から各分野の安全政策によって、すでに高い安全性が確保されている

その一方で……

- 自治体の関心が高まる
 - 京都府、亀岡市
 - 十和田市(青森県)
 - 中津市(大分県)
 - ……など

Mature Life Institute 13

IV-1. 京都セーフコミュニティ研究会

- SCの「概念」、「取組み内容」、「認証」の研究
- 京都府下におけるSC導入の可能性に関する調査
- 転倒防止に関する技術、製品開発に関する研究

Mature Life Institute 14

IV-1. 日本セーフティプロモーション学会

- 経緯
 - 2005年9月
京都SC研究会メンバーを含む有志により「日本SP学会」に向けた活動を開始
⇒10回にわたる学会設立準備会を開催
 - 2007年9月 日本SP学会設立
- 目的
 - 事故・暴力・自殺などを予防するセーフティプロモーション(SP)に関する学術研究・活動支援等を通して市民の安全・安心に寄与する

Mature Life Institute 15

IV-1. 日本セーフティプロモーション学会

- 活動内容
 - SP&SCに関する学術研究、調査および研究者と実践者の交流
 - SP&SCに関する普及・啓発
 - SP&SCに関する支援・協力
 - 国内外の関係機関・団体、学会、研究会などとの交流、研修、連携活動
 - SC認証に向けた活動
 - 学会誌およびその他の刊行物の発行
 - 学術大会、講演会などの開催
 - その他

Mature Life Institute 16

IV-1. 日本セーフティプロモーション学会

- 日本SP学会設立 2007年9月24日



Mature Life Institute

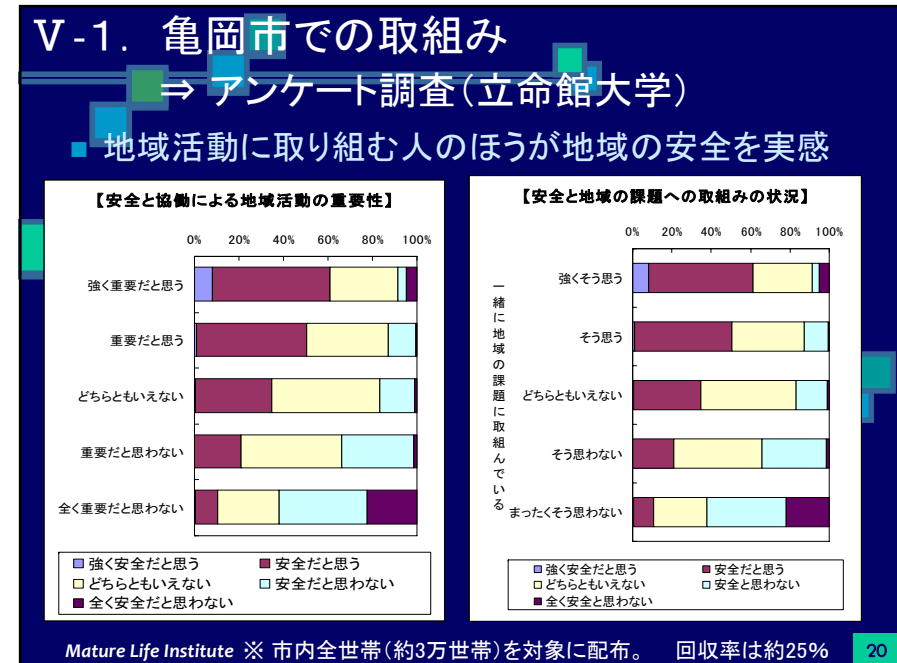
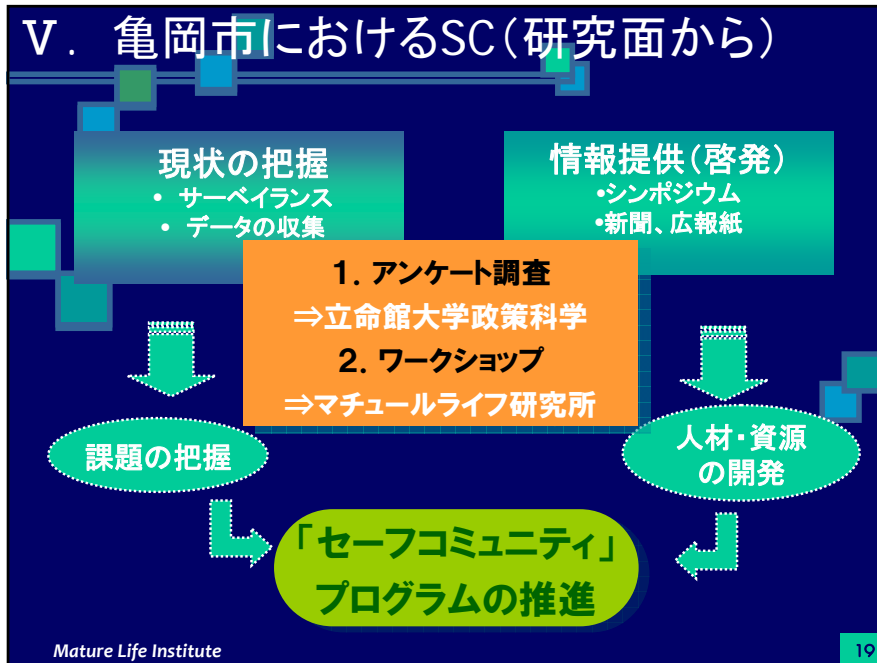
17

IV-2. 京都府、亀岡市におけるSC

- 2006年2月 立命館の招聘により WHOCC協働センターから Dr. Bo Henricson 来日
- 2006年7月 亀岡市 SCに取り組むことを表明
- 2007年3月 アジアのSC指導者を招聘
⇒Dr. Lu Pai (台湾)、Prof. Joon Pil Cho (韓国)
⇒亀岡市視察、シンポジウム開催
- 2007年9月 現地審査+シンポジウム
(⇒京都府、亀岡市の取組みについての詳細は、次の報告で……)

Mature Life Institute

18



V-1. 亀岡市での取組み

⇒ アンケート調査(立命館大学)

- 地域への愛着・満足度・付き合いの高い人ほど、地域の安全を感じる

【地域の安全と愛着度】

安全と感じる程度	強い愛着がある	愛着がある	どちらともいえない	愛着がない	全く愛着がない
強く安全だと思う	40%	50%	10%	0%	0%
安全だと思う	20%	60%	20%	0%	0%
どちらともいえない	10%	30%	40%	20%	0%
安全と思わない	5%	15%	35%	45%	0%
全く安全と思わない	2%	8%	20%	50%	20%

【地域の安全と生活の満足度】

安全と感じる程度	非常に満足	満足	どちらともいえない	不満足	まったく不満足
強く安全だと思う	35%	55%	10%	0%	0%
安全だと思う	15%	65%	20%	0%	0%
どちらともいえない	10%	35%	45%	10%	0%
安全と思わない	5%	20%	35%	40%	0%
全く安全と思わない	2%	10%	25%	50%	13%

【地域の安全と付き合いの状況】

安全と感じる程度	生活面での協力関係	世間話や立ち話	挨拶は交わす	挨拶もまれ
強く安全だと思う	45%	55%	0%	0%
安全だと思う	25%	65%	10%	0%
どちらともいえない	15%	40%	35%	10%
安全と思わない	10%	25%	45%	20%
全く安全と思わない	5%	15%	35%	45%

地域のつながりは、安全・安心感と関係がある

地域のつながりを地域の安全向上に活用する

Mature Life Institute 21

V-2. 亀岡市での取組み

⇒ ワークショップ(マチュールライフ)

- 地域の実情にあった安全なまちづくりの展開
- 住民が主体的に活動に関わる機会の設定

↓

- パイロット地域においてワークショップを開催
 - 篠町(人口約18,000人)自治会
 - 2時間/回×4回
 - 参加予定 住民、組織・団体などから25人前後
 - 当日は、60-70人が参加


Mature Life Institute 22

V-2. 亀岡市での取組み

⇒ワークショップ(マチュールライフ)


1回目: 地域課題の発見と共有

- ・子ども高齢者の安全
- ・交通事故



2回目: 地域の目標の設定・共有

触れ合いを通じた安全づくり



3回目: 課題の解決と目標の達成方法の議論

- ・地域資源の掘り起こし
- ・住民ができることを議論

Mature Life Institute

23

END

ありがとうございました